

4. 7 横浜国大寮歌・応援歌など蒐集奮戦記

柳田圭一

(注：横浜国立大学工学部100周年記念誌WEB版に寄稿したものを、大学側のご厚意により、ここに載せさせていただきます)

1999年それまでの、20年の海外勤務を含む会社員生活を65歳で終え帰国した。一般に私が働いていたエンジニアリング会社の海外勤務地は「歌の栄えぬ国」である。海外勤務中も仲間を募って合唱団まがいのことをしていたが、最後の勤務国は「集会の自由」が無く、日本人が数人集まって何やらやっている、白い目ならぬ監視の目が光る。必然的に「歌の集まり」も開催を自粛せざるを得なかった。

しかし、制限とは無縁に「唇に歌」はある。横浜高工校歌の「希望の光うららかなの・・・」は最高の教訓で、「国を富ましめ世を利する」は、苦しい海外勤務の支えであり、「校のほまれを心せん」は生涯の指針である。「弘南寮寮歌」は独特の3拍子で、青春の息吹を感じさせる。

帰国して、弘南寮会（第四寮）総会のご案内を頂き、「寮歌・応援歌」の斉唱に参加させて頂いた。しかし、功成り名遂げた四寮OBでも、その歌唱はサマにならない。作詞者・作曲者に申し訳ない。古いメモを探したら、楽譜集の一隅に「四寮寮歌」の五線譜が挟まれていた。これは、在学（在寮）中に作りかけたものらしい。勿論手書きの楽譜。多分、目立つ行為を遠慮して「未公開」のまま楽譜に挟み込んであったものだろう。

話は70年前にさかのぼるが、高校在学中は「楽理」の専門家になることを希望していた。因みに私に音楽を指導して下さった方は故小田島樹人先生（「おもちゃのマーチ」等多数の童謡の作曲者）である。先生からドイツ語を習い、シューベルトの「冬の旅」の全曲歌唱の指導を受けた。しかし、将来、音楽で生活して行くのは厳しいので、工学部進学を選択した。横浜国大工学部進学後も、複数の著名な先生から、個人的に作曲の基礎、楽理を学んだ。

総会で歌われた寮歌・応援歌の保存を目指して、まず当時の最新の「楽譜作成ソフトウェア ミュージックスコア」を使って、譜面を作りそのほかの曲の歌詞を併せて「弘南寮会 歌集」を作って、総会資料として提供した。これが、今日に繋がるとは・・・。

昨年、弘南寮会役員の深作、尾藤両兄から、工学部創立 100 周年記念誌発行にあたり高工校歌を広く公開・保存する行動へ参加を求められた。深作兄には私が所属する「小田原男声合唱団」のホームページ作成でご協力を頂いた縁もあり、私にとっても千載一遇のチャンスで断る理由は皆無であった。

深作兄他の役員の尽力により、まず学部当局に「高工校歌を記念誌に取り上げて下さい」のプレゼンテーションを行うことになり、2020年7月22日、富久田幹事代表、深作幹事と私が大学を訪問し、梅沢大学院工学研究院長、真田理工学部長、望月事務部長他にお会いして陳情を行い、その場で高工校歌の2番まで、応援歌第一を機械音で再現して聴いて頂くことが出来た。余談ではあるが、工学博士にとっても「パソコンが国大の歌を歌う」のは初めてのご体験ではなかったか？ここで、「四寮のみではなく他の寮の話も」の提案が大学事務局側からあり、大学側のポジティブな反応を感じた。

号砲は高らかに鳴った。深作兄に当方のコーディネーターになって頂き、大学側の記念誌担当の委員長をご紹介頂き、富久田兄の縁故で各寮OBに檄文が飛び、資料、特に「寮歌」の蒐集にご協力が得られることになった。

私の仕事は「楽譜」と「音源」の製作である。最近は楽譜作成ソフトに非常に良いものが出来ているので、私が考えるのは、五線上のオタマジャクシの位置とその大きさだけで良い、と言えは簡単であるが、これが楽曲の始まりであり全てである。

ここで、余談になるが「一高寮歌」の「ああ玉杯に花受けて・・・」には数種の楽譜があると聞いたことがある。手元にある楽譜は4分の4拍子であるが、もし今私が採譜したら、8分の6拍子にして「ああ」を強調するかもしれない。

「高工校歌」は土井晩翠氏の作詞、中田章氏の作曲による名曲中の名曲で、立派な楽譜が残っており、何ら問題はない。簡単な伴奏譜を付け、最

後の、「校のほまれを心せん」は、アクセントを入れ、繰り返しにした。因みに「高工校歌」は私が1954年に入学した時の入学式で「歓迎の歌」として演奏されている。新入生にとって横浜国大入学はまさに「希望の光」だった。

「四寮寮歌」「応援歌第一」「応援歌第二」は十分に歌いこんでいるので、耳にも残って居り、比較的簡単に譜面にし、元グリークラブ員である尾藤兄に送り、確認して貰った。「四寮寮歌」の繰り返し部分の伴奏には「稱名寺の鐘の音」「金沢海岸の波の音」を入れた（つもりである）。二つの応援歌にはトランペットまがいの前奏を入れて、元気を出してみた。残念ながら応援歌第三以降については「ウタ」を記憶している人が見当たらず、楽譜は無い。

富久田兄の檄文で、各寮の資料は集まりつつあったが、寮歌の存在は分かっても楽譜は見当たらない。

第一寮について、尾藤兄が寮生OBの前嶋氏、原田氏を紹介して下さり、各自に、私との電話口で歌って頂くことが出来た。「演奏」当日、決めておいた時間に電話受信機にICレコーダーをセットして「モシモシ」。世の中では「後期高齢者」にされているお二人とも、驚くほどの元気さで、積極的に歌って頂き、録音は大成功！直ちにパソコンに取り込みMP3で尾藤兄、深作兄に転送。歌われたお二人の間に歌詞の違いがあったが、尾藤兄がメールで調整してくれた。さて採譜である。ICレコーダーにイヤホンを繋ぎ、耳にはイヤホン手には鉛筆、机上には五線紙、30年前にTime slipした。「この音、どっちかな？」と迷うことも少なく採譜は大成功。尾藤兄からお褒めのメールを頂き、簡単な伴奏譜を付けて復元は完成。更に、原田氏のご意見（と言うより実演）を参考にして尾藤兄が手を加え修正することが出来た。

話題に富むのが第二寮寮歌で、先ず楽譜に代わって受け取ったのがDVD。有難いが、実質は「宴会記録」。聴くときの雑念を除くために「オト」だけにして、今度はパソコンにイヤホンを繋ぎ、再び五線紙と鉛筆を手。ところが宴会では皆さん同じ歌を歌って居るつもりでしょうが、採譜側に言わせて頂くと違う「ウタ」を皆さん個性豊かに歌って居るとしか聞こえない。一部はハモっているどころか、オクターブ下も居る。出来た五線紙には何とも言われぬ記録が残った。尾藤兄、深作兄の「編曲だから

いいですよ」のはげましの言葉に力づけられて、16小節の楽譜が出来、これにも伴奏を入れようと、思い切って冒頭を短調の分散和音にしてみました。

第三寮からは、正規の寮歌ではないようであるが、楽譜を頂いたのでそれを使わせて頂くことにした。寮生OBに音楽に詳しい方が居られるようで、今後意見を交換したい。

勿論、素人の採譜・編曲です。ご批評も、代案もあるでしょう。しかし、第二寮寮歌を例に出すまでもなく、「誰もはっきりには知らないことです」と思えば怖いものはない。100周年記念誌を読んで「第二寮寮歌は違う！」とどなり込んでくる方が居るかも知れませんが、それで、いいじゃないですか？それが「進歩」「新しい発見」と言うものでしょう。

何よりも、弘南寮OBの奮闘を評価し、その「名教自然」の心を受け継いだ母校愛、努力を評価して頂きたい。

100周年記念行事の一環として、元寮生諸兄（殆ど80歳以上）に集まって頂き、各寮の寮歌を歌い、最後に「希望の光」の大合唱をするのは如何でしょうか？ 齢86の爺の夢である。

2020年10月吉日